

ジャンボタニシの被害を防止しましょう

ジャンボタニシ(和名:スクミリンゴガイ)は食用として輸入されたものですが、野生化し水田に生息するようになりました。水田に侵入した貝は、田植え間もない稚苗を食べ被害を与えます。本年度は暖冬の影響によりジャンボタニシの発生が多いことが予想されますので見つけ次第、防除をしましょう。



ジャンボタニシ
の卵塊

防除

①貝、卵塊の捕殺

本田や水路で貝や卵塊を見つけたら、早期に徹底的に捕殺(つぶすなどして処分)する。また、水口に網を張りジャンボタニシの侵入を防ぐ。

②浅水管理

田植え後、20日間頃まではできるだけ浅水管理をする。そのため、田面をできるだけ均平にする。

③薬剤散布

田植え後、ジャンボタニシを確認したら直ちに散布する。水深3~5cmの状態ですべてに散布し、散布後は水を保ち、落水やかけ流しをしない。

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
ジャンボたにしくん	1~2kg/10a	収穫60日前まで	2回以内

※使用時期や使用回数に制限を受ける場合はスクミンベイト3を散布する。

スクミンベイト3	2~4kg/10a	発生時	—
----------	-----------	-----	---